

瑞 祥 新 春

日蓮宗の修行 水行(すいぎょう)

どの宗派においても、僧侶の道を志す者に「修行」というものは必要不可欠な必須事項です。各宗派様々な修行方法がありますが、我々日蓮宗の僧道修行の1つに、水神



をお祀りし清められた水を被る「水行」というものがあります。これは元来、日蓮宗の祈禱修法の相伝を授かる「日蓮宗大荒行堂」(毎年11月1日から翌2月10日までの寒100日間)において、早朝3時、6時、9時、12時、15時、18時、23時と、毎日7回の水行が行われます。そもそもなぜ水を被るのかというと、1つは自身の過去の業(ごう)・因縁などすべてを含めた穢れを落とす罪障消滅のためと、国家安泰、檀信徒の安穩なども唱える水行肝文には込められています。もう1つは日蓮宗祈禱法「木剣修法(ぼっけんしゅほう)」を授かる上で最重要な意味を持ちます。古来の刀鍛冶では、熱して叩いては冷やす、を繰り返すほどより強靱な刀ができます。大荒行堂ではひたすらお経を上げ、ひたすら水を被ることを繰り返すことにより、自身により強靱なお経の力を蓄えます。その力を以って、秘伝の木の剣を数珠とともに振り、打ち鳴らすことで様々な魔事魔障を祓うのが、我々日蓮宗の「御祈禱」の力なのです。昨年末には巨福寺本堂前にて水行会が行われ、檀信徒の田中秀治さん率いる高梁市青年経済協議会の皆さんが、水行を体験されました。



巨福寺本堂前開設の水行場



水行桶と木剣



高梁市青年経済協議会の皆さん



水行会の様子



「正月の一日は日のはじめ月の始めとしのはじめ春の始め これをもてなす人は月の西より東をさしてみつがごとく 日の東より西へわたりてあきらかなるがごとく とくもまさり人にもあいせられ候なり (重須殿女房御返事)」日蓮聖人が正月に女性信者の方から「蒸し餅百枚、果物一籠」を供養されたお礼に書いた手紙の一節です。要約すると「元日は一切の始めの日です。この日を大切にすることは、月が次第に満ち、日が普く照らしていくように、内には人徳を積み、外には人から敬愛をされるのです」となります。新年のご供物の礼状一つにも聖人の細やかな心遣いが感じられます。この後に法華經の教えを易しく説明をされ、信ずる人の功德を示し女性の信心を褒め称えています。聖人のお手紙はどれも法華經の教えが人それぞれにふさわしい形で分かり易く綴られています。その素晴らしさだけではなく巧みな比喻とユーモアと愛情が行間に溢れる文学的価値も高いものばかりです。私は座右におき事あるごとに手にとっては繰り返し読んでいます。聖人は手紙の中で、教えの実践には厳しく教えを実践している人には優しく教え励まされています。私はそのお人柄と教えに触れられることをこの上ない喜びとし、いつもご遺文から叱咤激励され日々を過ごしています。

正月は一年のスタートの日。そのかけがえのない日を大切にすることは、この一年も自分ばかりでなく周りの全ての存在と共に豊かで実りある楽しい日々を過ごすことができるという冒頭の聖人の言葉を自分の身にしっかり納め、今年も心安らかな日々を歩いていくことを願い誓い行ってまいりたいと思います。 合掌。

琉游舎ホームページ : ryuyusha.com 配信中

巨福寺 その他の出来事

巨福寺の先代住職の奥さん・藤沢アサ子さんが、今年の3月でめでたく満100歳を迎えます。一昨年ご主人の玄唱上人に先立たれましたが、特別養護施設・白和荘にて、今なお元気、とまではいえませんが、国よりお祝いの表彰を賜りました。(写真上:曾孫・凌玄くんと)



昨年の西日本豪雨はじめ、全国各地で多発する大災害を受けて、巨福寺の井戸では自動くみ上げポンプの故障により、井戸水をやむを得ず上水道に切り替えましたが、この度新たに手動のポンプを取り付け、井戸を再興しました。



◎今後の行事予定 : 1月14日(火)14時~ お焚上げ 2月2日(日)14時~ 節分会・福引き抽選
2月15日(土)14時~ 釈尊涅槃会 3月17日~23日 春彼岸 4月29日(水)花まつり・総会